

第 11 回 富士山支部勉強会 “持続可能な社会における暮らしと健康” (2021 年 4 月 18 日)

新型コロナウイルスの影響により、支部勉強会も 1 年ぶりとなりました。今回は、未来工学研究所の小野直哉先生と NPO 法人 EPO の高橋智代表に講師になっていただきオンラインで勉強会を行いました。

タイトルにある“持続可能な社会”について、世界的には 2030 年までに達成したい 17 の目標 (SDG s) として知られておりますが、医療従事者の多くは興味をしめさないようです。小野先生のお話では、20 世紀は効率性を最優先した大量生産・大量消費・大量廃棄の世紀だったと伺いました。医療においても、多資源投入型医療となりがちで、その結果、複合疾患の罹患率が上昇して高額医療となり、かえって非効率になっているのは皮肉なところなのです。

日本の抱える課題には、超少子高齢・人口減少・災害多発があり、海外でどこも体験してない課題先進国です。その解決には、効率化優先の 20 世紀モデルでは立ち行かず、自らモデルを創る課題解決先進国になることが求められます。その糸口の 1 つに、当支部がこころがけている統合医療の社会モデルがあげられました。たとえば、働き盛りの方がうつ病をわずらったときに、薬を処方するだけではなく役割や仕事を処方するといった視点です。多様な人があつまる地域には、多様な役割があります。その実践として、後半は NPO 法人 EPO の取り組みを高橋代表にお話しいただきました。

EPO の始まりは、地域のボランティアからだといいます。放課後等デイサービス、農業による就労支援、森の幼稚園など、自分たちの周りにある困りごとを解決することで事業が広がったとのことでした。その中には多様な就労スタイルがあります。すべて目の前のニーズにこたえながら発展したとのことでした。障害施設だと抵抗があつていけない方も、近所の農家さんの手伝いには抵抗なく体をうごかせるようです。作業していると、自然と近所の方から声がかかります。高齢の方の見守りをかねて畑を手伝うなかで、感謝され、野菜を頂き、販売に繋がったり、地主さんから使わない工房をいただき、利用者さんと一緒に片付け、地域に必要なものをつくる中に、役割や達成感がうまれているようでした。地域住民が顔の見える関係を築き、みんなで地域独自の課題に向き合い、お祭りや伝統料理などお年寄りの知識をいかしていくなか、持続可能な暮らしと健康のヒントがあることに気づける講義でした。



持続可能な社会における暮らしと健康
一人新世におけるSDGsと超少子・高齢・人口減少・独身社会の課題—

2021年4月18日(日)
@
日本統合医療学会 静岡・山梨(富士山)支部主催
ZOOM講演会

小野 直哉
(公財)未来工学研究所
明治国際医療大学
日本統合医療学会
Naoya ONO



特定非営利活動法人
EPO

土のうえ 空のした